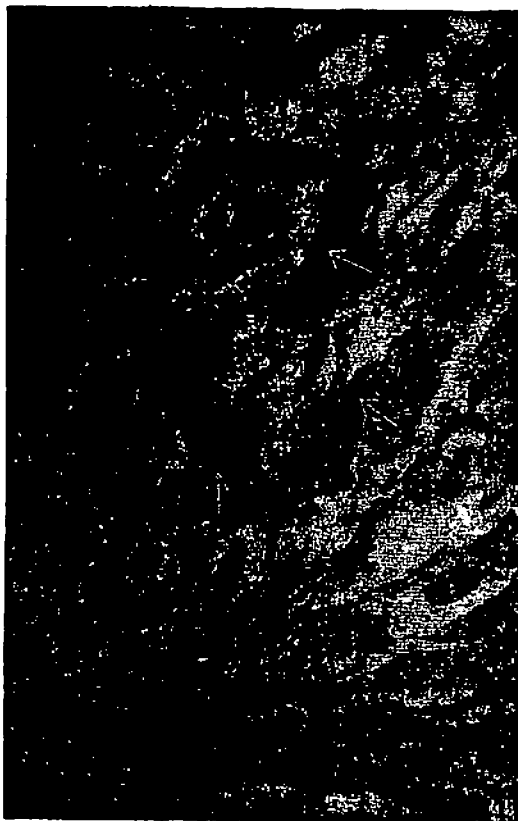


ヒナの横紋筋肉腫の1例

北大獣医学部比較病理学教室 第10回 獣医病理学研究会標本No.150



動物：ニワトリ，白レグ（ハイスドルフ・ネルソン），性：雌，年齢：140日，飼育地：北海道空知郡長沼町，提出標本：右脚大腿二頭筋領域の腫瘤。ヒナの栄養状態は普通で，両脚を伸し，起立困難であったが，脚の痛覚及び諸反射はいつも認められた。畜主によるとこの養鶏場で過去1ヶ年間に本例と同様な腫瘍を5例経験しているとのことであった。因にこの養鶏場では当時3万2000羽を飼育していた。

肉眼所見：右脚大腿二頭筋領域に鶏卵大の腫瘤形成が認められた。腫瘤は弾力性に富んでや、硬く觸れ，周囲組織と限界明瞭で，極めて薄い被膜で包まれていた。剖面は黄白色調，密実で，細血管の充盈を伴い，不規則に走行する線維束が認められた。腫瘤中心部には不整形の壊死巣が認められ，座骨神経が腫瘤中心部を貫通していた。脾臓に隣接して蚕豆大の同様な腫瘍が認められた。其他著変を欠く。

組織所見：腫瘍組織は不規則に縦走及至横走する腫瘍細胞線維束よりなっていた。中心部領域は不規則な形をした壊死巣よりなり，細血管の拡張充盈及び出血を伴い，空胞化巣が散発していた。腫瘍細胞を圍繞する基質の膠原線維は一般に疎なるも所により強く増生していた。

腫瘍構成細胞は所により極めて多形性で，大小の紡錘形細胞，帯状細胞，多肉円形細胞及び巨大なブルキンイエ細胞を思わせる淡明均質な原形質とhyperchromaticな巨大単一核（fig. 2）及至2核性の細胞が認められた。時に10ヶ以上の核を持つ多核巨細胞（fig. 3）が出現した。かかる細胞では筋細胞由来を思わせ，原形質好酸性で縦走する細線維や無数の微小空胞を伴っていた。又他の領域では長い紡錘形細胞が優位を占め，一見線維肉腫像を思わせた。しかしこれら腫瘍細胞に混じて明かに横紋を有する筋細胞が混じて認められた（fig. 1）。又横紋を有する腫瘍細胞の核分割像も指摘された。介在座骨神経線維では変性脱落像が顕著であった。

優位を占めたかゝる紡錘形細胞の電顕像では筋萎細胞を思わせた。すなわち原形質の一部に少数の筋原線維束とZ盤像を思わせる所見を伴っていた。これら細胞間隙には白血病ウイルスのC型粒子類似のウイルス粒子が多数認められた。以上の結果から横紋筋肉腫と診断した。

横紋筋原発のRhabdomyoma 或はRhabdomyosarcoma は人及び動物を通じて極めて稀である。

（写真fig. 1：H-E × 700，fig. 2：H-E × 770，fig. 3：H-E × 770）